



庭の外の外観
© 宮本和義

4月27日(火)再開

耐震補強工事のために休館しておりました世田谷美術館分館・向井潤吉アトリエ館が、

4月27日(火)より再開いたします。

向井潤吉ファンのみならず、多くの皆さまのご来館を心よりお待ちしております。

2010年4月27日(火)～7月25日(日)

●開館時間／午前10時～午後6時(入館は午後5時30分まで) ●休館日／毎週月曜日(ただし祝
休日の場合は開館、翌日休館)、5月6日(木)は休館 ●観覧料／一般200円(160円)、大・高生150
円(120円)、中・小生、65歳以上、障害者の方(一般)100円(80円) ※()内は20名以上の団体料金。中・小生
は土・日・祝休日、夏休み期間は無料。障害者で小・中・高・大学生、および障害者の介護者(当該障害者1名に付き、1名に限る)は無料。

世田谷美術館分館 向井潤吉アトリエ館

〒154-0016 東京都世田谷区弦巻2-5-1 TEL:03-5450-9581 www.mukaijunkichi-annex.jp
東急田園都市線「駒沢大学」駅西口 徒歩10分／東急世田谷線「松陰神社前」駅 徒歩17分



《武蔵野の丘徑》1974年

向井潤吉と民家



向井潤吉アトリエ館は、1993年7月、はじめての世田谷美術館の分館として開館しました。年に3回の展示替えを行いながら、向井作品の魅力をお伝えする展覧会が好評を得て、作者の制作の息づかいを伝える個人美術館のひとつとして、多くの皆さまに支持されてきました。

向井潤吉(1901[明治34]年-1995[平成7]年)は京都に生まれ、18歳で二科会展に初入選して画家を志します。20歳代半ばの1927年にはシベリア鉄道を使って渡欧、パリのルーヴル美術館で21点に及ぶ模写を行い古典絵画の技法を研究しました。戦中は戦争記録画の制作に従事、戦後になってから本格的に民家をモチーフに選び、晩年にいたるまで全国各地を訪ね歩きました。

本展では、向井潤吉の確かな筆遣いによる民家の作品を集めて、初期作品や水彩・素描なども加えて展覧いたします。日本の各地を歩き取材した民家や茅葺き屋根のある村のたたずまいは、ますます郷愁を誘う風景となり、いっそうその輝きを増しているように感じられます。

昨年3月より耐震補強工事のため休館してまいりましたが、本年3月に工事も完了、内装もいくぶん新しくなり、アトリエ館スタッフも新たな気持ちで、皆さまのご来館を心よりお待ちしております。



《不詳(軍用機内無線士)》1937-1944頃



《下北の晩春》1974年



《遅れる春の丘より(長野県北安曇郡白馬村北城)》1986年

世田谷美術館分館 向井潤吉アトリエ館

〒154-0016 東京都世田谷区弦巻2-5-1 TEL:03-5450-9581 www.mukaijunkichi-annex.jp
東急田園都市線「駒沢大学」駅西口 徒歩10分 / 東急世田谷線「松陰神社前」駅 徒歩17分



土蔵展示室 ©宮本和義



《橋名にて(群馬県群馬郡橋名町)》1962年

本館情報 世田谷美術館

(詳細は、ホームページなどでご確認ください。)

■企画展

「川上澄生:木版画の世界 — 栃木県立美術館所蔵による」3月13日(土)～5月9日(日)

「フェリックス・ティオリエ写真展

— いま蘇る19世紀末ビクトリアリズムの写真家 —」5月22日(土)～7月25日(日)

■収蔵品展

「平成21年度第3期収蔵品展 第I部 麻生三郎と世田谷の作家たち
1月5日(火)～4月9日(金) 第II部 村山知義関係資料 内田昇三コレクション」

「平成22年度第1期収蔵品展 アトリエの時間 — 建昌覚造 模型とデッサン」
4月16日(金)～9月5日(日)

〒157-0075 東京都世田谷区砧公園1-2
電話03-3415-6011(代) ハローダイヤル03-5777-8600
www.setagayaartmuseum.or.jp

分館情報



清川泰次記念ギャラリー

〒157-0066 東京都世田谷区成城2-22-17 電話03-3416-1202
www.miyakawataiji-annex.jp

「清川泰次と1950-60年代のアメリカ」
4月1日(木)～7月25日(日)

◀《アブストラクト・イン・シカゴ》1954年

宮本三郎記念美術館

〒158-0083 東京都世田谷区奥沢5-38-13 電話03-5483-3836
www.miyamotosaburo-annex.jp

「ドキュメント 素描する宮本三郎 1950's写真家・中村立行による」
4月1日(木)～7月25日(日)

◀《描く宮本三郎》1954年 撮影・中村立行 個人蔵

